

水不足について考える

川口市立上青木中学校 二年 渡邊 舞桜

水。そう一口に言ってもいろいろなことに使っています。入浴、トイレ、洗濯、炊事など。私たちの生活には欠かせないものです。私が住んでいる日本では蛇口をひねれば水が出るし、お店にもたくさん売っているから安全な水を飲めるということにありがたさを感じたことがありませんでしたが、この作文を書くうえでアジアやアフリカをはじめとする発展途上国には安全な飲料水を得られない人がたくさんいることを知りました。その数はおよそ九億人といわれ、世界の人口の七人に一人は安全な飲料水を得られない状況にいます。また、不衛生な水が原因で私たちのような子供も毎年一八〇万人も亡くなっているというのも事実です。

日本では安全な水が飲めるからといって、この問題から目をそらしてはいけなと思います。私たち日本人は一日に約三〇〇リットルもの水を使っています。また、そのうち七五パーセントは入浴、トイレ、洗濯などといった飲料水以外の用途です。一方、世界には水源から一キロメートル以上はなれたところに住んでいる人が九億人もいて、そのほとんどが一日五リットルも水を使えないのです。また、その水もきれいなものではなく、野生の動物と同じ茶色い泥沼の水を飲まなくてはならない場合も少なくありません。一キロメートルというと往復で毎日三〇分、家族全員分運ぶとなると二、三時間もかかる計算になります。このきれいでもない茶色い水を運ぶために、学校に行けない子供もたくさんいるのです。

私は今まで、世界の水不足へ目を向けたり安全な水を飲めることに感謝したりしたことはありませんでした。けれども、このような事実を知ったからは小さなことから少しずつ始め、水を節約しようと思いました。そこで、まずは一日水の節約を意識して生活してみました。すると、入浴や洗いのものなど

で水を流しっぱなしにしていることがよくありました。また、コップに入れた水を飲みきれなくてながしに捨ててしまうこともありました。世界には水不足に悩む人がいるのに、水を無駄にしてしまうのはよくないと思います。これからは、歯みがきや洗顔、入浴、洗いものなどで水を使うときは短い時間でも蛇口を閉めることを意識し、たくさん使うお風呂の残り湯は洗濯やトイレ、水まきなどに利用して少しでも節水をしようと思いました。

他にも、私たちが消費している食料や日用品を生産するために、海外で多くの水が使われており、そういった水をあわせると、私たちは一日に三〇〇リットルも消費していることになります。たとえば、小麦一キログラムには二〇〇リットルもの水を使っています。食料の中で多くの水を使うのは牛肉ですが、エサとなる穀物の栽培に大量の水を使うため、一キログラムに二〇〇〇リットルもの水が必要なのです。この水は水が不足している地域で使われているものもあります。これを少しでも減らすため、できるだけ国内でつくられたものを食べるようにしたいです。また、日本では毎日たくさんの食料が食べられずに捨てられています。その一方で水不足の激しい地域では約十億人もの人が栄養不足になっています。なので私は世界で使われた水、苦しむ人々のことを考え、残さず食べようと思います。

これらのことを知ったうえで、私はこれから食べ物を無駄にせず、世界の人々のことを考えて残さず食べようと思います。また、何気なく使っていた水についても、水不足に悩む人々のことを考えて節水を心がけていきたいです。私たち一人一人が自分の生活の中でできる小さなことの積み重ねで、よりよい世界に変わっていくと良いと思います。